

BEAMS 的 日本遺産 有松 の巡り方



日本遺産
有松



BEAMS
JAPAN

A BEAMS Guide to Arimatsu, Nagoya, a Japan Heritage Site

日本遺産 (Japan Heritage) とは？

日本遺産とは、文化財や伝統文化に対して、その歴史的経緯や、世代を超えて受け継がれている伝承・風習などを含め、それらをひとつの「ストーリー」として遺産に位置づけるもので、文化庁により認定と支援の取り組みが行われています。有松のまちが歩んできたストーリーは、2019年5月に、文化庁から日本遺産に認定されました。

日本遺産 STORY #72

江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 ～藍染が風にゆれる町 有松～

どこまでも広がる藍色の空の下、藍で染められた絞り暖簾が風にゆれる古い商家の落ち着いた佇まい。絞りの町「有松」には、江戸時代の浮世絵さながらの景観が今も静かに残っています。

「ほいもの 有松染めよ 人の身の あぶら絞りし 金にかえても」

この歌を詠んだ『東海道中膝栗毛』の主人公の弥次さんは、絞りの素晴らしいさに魅せられて手拭いを買いました。旅のお土産として、世界に知られている有松の絞りはいかがですか。四百年の歴史を持つ有松の江戸文化は、今も多くの人々を魅了しています。

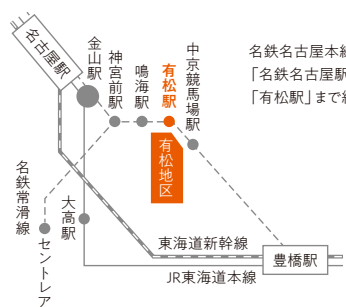
EVENT INFORMATION

日本遺産・有松では、毎年、下記のイベントが予定されています。

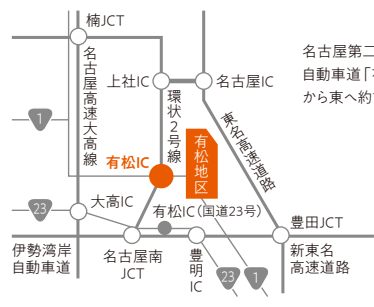
3月 第3日曜	有松天満社春季大祭・祈年祭	菅原道真公の命日の時期に合わせて行われる天神様のお祭り。五穀豊穡を祈る祈年祭も同時開催。
6月 第1土・日曜	有松絞りまつり	400年以上に渡り脈々と受け継がれてきた絞りの技が、東海道の町並みを舞台に披露されます。
10月 第1日曜	有松天満社秋季大祭・有松山車まつり	豪華絢爛な山車3輛(布衣車・唐子車・神功皇后車)が、からくりを披露しながら東海道を曳行されます。
10月中旬～11月中旬	晩秋の有松を楽しむ会	有松の町並みに文化とアートが融合するイベント。生け花やお茶席、町家ライブなどが開催されます。

ACCESS

鉄道でのアクセス



車でのアクセス



BEAMS EYE Akimasa Sano

歴史的な
町並みに、
今もなお産業が
息づく価値を



BEAMS JAPAN プロジェクトリーダー
佐野明政

日本全国に歴史ある町並みは数多く残っていますが、その町並みとともに現在も産業が残っていることに面白さを感じます。有松・鳴海絞りは、“製品”を直接くって染める商品のため、1点1点に違った表情があり魅力的。現代のライフスタイルの中でも、画一化されたデザインではなく、不均等さから人の温かみを感じるデザインは相性がいいと思います。そして、三英傑(信長・秀吉・家康)を輩出した愛知・名古屋。徳川家康公がいたからこそ、有松・鳴海絞りが東海道を代表するお土産になった事実とともに、その歴史的背景も噛みしめながら町歩きを楽しんでみてください。

BEAMS 的 日本遺産・有松の ものがたり

日本遺産・有松の町並みに、何気ない風景に、そのストーリーに触れて、BEAMSが感じる日本遺産・有松と、わたしのものがたり。



BEAMS EYE Yuri Ota

町並みを歩く
その先に、
職人たちの
喜びを感じて



BEAMS JAPAN チーフバイヤー
太田友梨

現代の町並みの中を歩いていたはずなのに、急にそこだけ空気が変わるような歴史ある町並み。タイムスリップしたような感覚になれる町が、名古屋の中心からそう遠くない場所にまだ残っていることに驚きます。町並みを象徴する“ありまつ”の暖簾も、同じように見えてそれぞれ(色や柄の)ニュアンスが違う。職人がひとめひとめを手でくりながら作り上げていく、くくって、染めて、糸を解いて…やっとのことで柄の全貌が見える。その瞬間は、職人の方しにしか味わうことのできない特別な喜びではないかと、暖簾を見ているだけで想像してしまいます。



有松とは？

日本遺産・有松の認定名称は、「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町 有松～」。東海道約800mに沿って建ち並ぶ有松の町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている歴史的価値の高いものです。江戸時代の浮世絵にも描かれ、弥次さん喜多さんも眺めたその町並みには、卯建(うだつ)のある瓦屋根、塗籠造り(ぬりこめづくり)の壁など、江戸時代の旧家が数多く残り、伝統の絞りの技とともにその価値がいま改めて注目を集めています。

有松・鳴海絞りととは？

1608年、尾張藩が知多一帯に有松地域への移住を奨励する御触書を發布。その奨励に応じ最初に移住してきた8人の中に竹田庄九郎がいました。しかし、有松地域には耕作に適する土地もなく、移住者の生活は困窮。そんなとき、名古屋城築城のために九州・豊後から来ていた人々が着用していた絞り染めの衣装を目にした竹田庄九郎は、当時生産が始められていた三河木綿、知多木綿に絞り染めを施した「手ぬい」を街道のお土産として販売を始めました。これが、有松・鳴海絞りの起こりと言われてます。

名古屋おもてなし武将隊® 徳川家康的日本遺産・有松の

れきしがいと

名古屋の歴史を知り尽くした、名古屋おもてなし武将隊®徳川家康公による、日本遺産・有松の“ちょっとニッチ”な歴史案内をお届けします。

第1話



有松の町並みは、
国づくり成功の証じゃ。

有松・鳴海絞りは、江戸時代に九州・豊後から入ってきた新しい文化だったが、その後、一帯として大いに栄えたわけじゃ。当時、国の銭(国家予算)はほとんどが軍事目的に使われておったが、わしはその銭を“まちづくり”へと転化していったわけじゃ。有松の町並みに、例えば「岡家住宅」のような大きな屋敷が建っているのは、わしが目指した街道づくり、ひいては国づくりが上手くいった証のようなものじゃな。

第2話



懐の深い名古屋で、
文化が花開くのじゃ。

名古屋は、器じゃ。分かりやすいのは、「なごやめし」じゃな。なごやめしは、今では20では足りぬほどの種類があるが、これには三重で生まれた天むすや、一宮のあさげ(モーニング)文化など、名古屋生まれでないものもたくさん含まれておる。それでも“なごやめし”として打ち出すことを認めてきた名古屋の懐の深さが文化を作ってきたわけじゃ。有松もまさにそうじゃ。九州・豊後で生まれた絞りが有松で花開いた。これも、名古屋の器としての役割を示す所以じゃと思うておる。

第3話



有松・鳴海絞りは、
世界で唯一の
三次元的な反物じゃ。

着物がなぜ、優秀であるか。それは、平面だからじゃ。平面を体に添わせるからこそ、どんな立体にも合わせることができる良さがあるんじゃな。これは装い(ファッション)の世界ではなかなか珍しいことで、中でも有松・鳴海絞りは、反物の状態でも凸凹があり、どこか立体が想像(イメージ)できるんじゃな。世界的には「有松・鳴海絞りは、世界で唯一の三次元的な反物である」と称賛されておるそうじゃ。わしが着ればわしになり、信長殿が着れば信長殿になる、他の国や地域ではなかなか見ることができない装いじゃ。

第4話



有松は、世界に“藍色”を
打ち出す発信基地じゃ。

日本遺産・有松の認定名称「藍染が風にゆれる町」とは、なかなか良い名が付いたと思うておる。有松には風が吹けば揺らめく暖簾があるように、実際に町を歩き、風を感じ、その様をぜひ見て欲しい。特に若い者たちは、己が自身を上手に撮るじゃろう。有松には、非常に“映える”場所がいくつもあわけじゃ。若い者たちは、己が自身とともに上手に撮ってやって欲しい。今では絞り染めは多くが化学染料になっておるが、それでも“藍染”という名称が付いたわけでの、有松は世界に日本特有の色“藍色=JAPAN BLUE”を発信していく場所として大いに期待しておる。

日本遺産・有松 meets

名古屋グランパス

日本遺産・有松の文化とストーリーが、
地元のプロサッカーチーム「名古屋グランパス」と共鳴して、
また新しい文化を生み出しました。

TOPICS_1

有松・鳴海絞りの伝統柄を取り入れた、
4試合限定ユニフォームが登場！

名古屋グランパスが主催する夏のホームゲームシリーズ「鯨の大祭典」が、BEAMS JAPANが展開する「大名古屋展2021」と連動し、スペシャルユニフォームが制作されました。日本遺産・有松の名産、有松・鳴海絞りの伝統柄“銚段絞り”をモチーフに、BEAMS デザイナー・水尾旅人氏がデザイン。「鯨の大祭典」対象4試合にて選手が着用するほか、スタジアム来場者にレプリカユニフォームがプレゼントされます。



名古屋グランパス「鯨の大祭典」
選手用ユニフォーム
左:フィールドプレイヤー
右:ゴールキーパー

TOPICS_2

名古屋グランパスの“有松なひと”
柿谷曜一朗選手に特別インタビュー！

知多から有松へ“移住”した竹田庄九郎が
新たな地で生み出した有松・鳴海絞り。その
ストーリーにシンクロするように、2021年
シーズン心機一転、名古屋グランパスへと
“移籍”し新たなサッカー人生をスタートさせ
た柿谷曜一朗選手にお話を伺いました。

柿谷曜一朗選手、武田洋平選手

——先日、記者発表で有松までお越しいただきましたが、日本遺産・有松の町はいかがでしたか？

「まるで京都みたいな雰囲気やなど。名古屋にもこういう雰囲気の場所があるんやなど、僕にとっては新しい発見でした。コロナが落ち着いたら家族みんなで名古屋の魅力をつづつ知っていきたいなと思っています。」

——竹田庄九郎の“移住”を機に誕生したのが「有松・鳴海絞り」ですが、柿谷選手も今シーズンは、“移籍”という大きな決断をされました。

「家族ができたことで、娘に楽しくサッカーをしている自分を見てもらいたい(記憶してもらいたい)という思いが強く芽生えました。それを考えたときに、どこを見渡しても知っているスタッフ、関係者に囲まれたセレッソ大阪に比べると、いい意味でも悪い意味でも甘えが出てしまう、それによって自分の状況を苦しくしてしまっている部分もあるなど…。もう一回、純粹にサッカーだけのことを考えて、サッカーを楽しむためには、環境を変えるのが一番だと思い、名古屋グランパスへの移籍を選びました。今回の移籍は、“家族への思い”が一番大きくて。今年生まれた2人目の娘にも、‘パパはカッコいいサッカー選手やったんや’って理解してもらえるようになるまでサッカーを続けたいですね。」

——一足先にスペシャルユニフォームを着ていただきました。

「個人的に、白と赤のユニフォームがめちゃくちゃ好きなんです。なので、このユニフォームは自分にドンピシャなユニフォームやなど、すごく気に入っています。ユニフォームは僕らの勝負服ですから、学生の頃に初めてのデートに着ていく服ぐらい大事なものです(笑)。2021年シーズンは現状は川崎フロンターレに走られてしまっていますが、それでも諦めずにまだまだ自分たちが優勝する気持ちで残りのシーズンを過ごしたいですし、ACLやカップ戦、ひとつでも多く名古屋グランパスでタイトルを獲得しよう。自分のできることを100%ぶつけたいと思います。」

INFORMATION

名古屋グランパス「鯨の大祭典」

名古屋グランパスのホームタウンである名古屋市、豊田市、みよし市をはじめとする愛知県内各市町村と連携し、名古屋グランパスが主催する“スタジアムで街で、クラブと地域がひとつになる”大祭典。

〈開催期間〉2021年8月15日(日)～9月1日(水)

<https://nagoya-grampus.jp/>

